

海外クルーズ船寄港を活かした観光・物産プロジェクト

(別添資料1)

3. 事業の背景・目的(P1)

海外クルーズ船等で訪れる国内外からの観光客をターゲットに「DMOやつしろ」を核とする観光地作りを進め交流人口の拡大と経済効果の発現を目指すもの。あわせて、農産物等の地域特産品プロモーション等を推進し、観光産業および食関連産業の活性化に取り組むもの。

4. 事業の概要（H28～R2年度）(P1)

- ① DMOやつしろ機能強化事業
- ② 大型クルーズ船等インバウンド事業
- ③ 八代市・氷川町・芦北町ブランド事業（シトラスブランディング事業）
- ④ フードバレー流通推進事業

7. 本事業における重要業績評価指標(P3)

指標名		開始	H28	H29	H30	R1	R2
観光客入込数 (人)	目標値	2,475,653	2,429,653	2,616,653	2,668,653	2,770,653	2,805,653
	実績値	2,475,653	2,215,463	2,846,679	2,534,812		
外国人観光客数 (人)	目標値	6,686	3,986	10,586	13,286	15,786	16,786
	実績値	6,686	4,406	4,755	4,533		
観光消費額 (千円)	目標値	12,367,175	12,173,517	13,114,319	13,379,020	13,894,747	14,071,206
	実績値	12,367,175	9,920,171	14,474,475	13,407,689		

9. 事業の地方創生への効果(P3)

- ② 地方創生に相当程度効果があった

10. 成果・課題(P4)、16. 今後の方針(P6)

成果	課題	今後の方針
観光関連（①DMOやつしろ、②大型クルーズ船、③シトラス）		
・おもてなしスキルアップ(①) ・新商品開発(①) ・新規輸出(①) ・ツアー参加者リピーター増(②) ・景観整備エリア拡大(②) ・地域ブランドの推進(③) ・PR動画・パンフレットの作成・配信(③)	・交付金を充当しないツアーの造成 ・海外大型クルーズ船寄港数の大幅減少による観光入込客数の大幅減 ・寄港数の増加に向けた誘致活動が必要。 ・外国人宿泊が減少しており、インバウンド宿泊対策が急務	・専門的人材、後継人材の育成(①) ・ランドオペレーターの養成(①) ・通訳強化(①) ・和のまち並み空間整備(②) ・WEB予約・カード決済システム(②) ・体験メニューと宿泊の連動(②) ・ツアー造成提案(②) ・ガイド通訳の強化(②) ・「シトラス」イメージ定着(③) ・「シトラス」商品の造成(③)
フードバレー関連		
・110件の商談・見積り依頼 2件成約 ・晩白柚輸出	・新商品開発や販路拡大・開拓に取り組む事業者の固定化 ・事業者間の連携不足。既存取引の継続と新たな販路獲得	・セミナー、ワークショップの実施 ・アドバイザーによる個別相談、事業者訪問 事業者間連携 ・見本市出展、フェア開催、バイヤー招聘 による商談機会の提供と、新規販路獲得 ・生産者、事業者、アドバイザーとの連携

5. 経費内容（H30計画）（P2）	8. 事業実績（H30）（P3）	16. 取組概要（R1）（P6～7）
DMOやつしろ機能強化事業		
29,587千円 ・専門人材の活用 ・観光専門人材の育成教育システム ・重点エリアモニターツアー	29,587千円 ・DMO会員研修会開催 ・外部人材等の活用 ・マーケティングの実施	29,286千円 ・専門人材の活用 ・観光専門人材の育成教育システム ・差別化、プロモーション
大型クルーズ船等インバウンド事業		
◎ソフト事業分 69,121千円 ・お堀舟巡りキャンペーン ・きなっせやつしろキャンペーン ・既存資源の開発及び商品化支援 ・インバウンド対策 ・スポーツツーリズム推進事業の向上	60,733千円 ・八代城跡お堀舟めぐり体験キャンペーン ・八代妙見祭多言語案内システム繁体字対応 ・大型海外クルーズ船実態調査 ・きなっせやつしろ宿泊キャンペーン ・くまもんファニチャー・インテリアの実施 ・体験観光商品開発支援 ・「路線バスで行く八代散策ガイド」発刊	47,614千円 ・八代城周辺、妙見宮周辺(運営支援) ・既存ブランド強化 ・インバウンド対策 ・地域資源の開発、商品化支援 ・スポーツツーリズム推進
◎ハード事業分 20,000千円 城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業	7,724千円 城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業	10,000千円 城下町やつしろ和のまち並み空間整備事業
八代市・氷川町・芦北町ブランド事業		
10,898千円 ・海外等への映像発信 ・魅力発信パンフレットや動画の制作 ・イオンフードアルチザン活動	10,756千円 ・魅力発信パンフレット制作 ・肥薩オレンジ鉄道とのタイアップPR ・シトラス周遊ロード開発 ・シトラス関連モニターツアー・講演会等 ・ブランディングPR動画の制作・配信 ・香港での晩白柚フェア開催等	9,277千円 ・海外等への映像発信 ・イオンフードアルチザン活動
フードバレー流通推進事業		
13,526千円 ・台湾プロモーション事業 ・八代産農林水産物等PR事業 ・リーファーコンテナ利用支援	12,798千円 ・FOOD TAIPEI 2018 八代ブース出展 ・台湾基隆市におけるフェア開催 ・八代産農林水産物等PR補助 ・リーファーコンテナ利用補助	13,647千円 ・台湾プロモーション事業 ・八代産農林水産物等PR事業 ・リーファーコンテナ利用支援
143,132千円	121,598千円	109,824千円

八代圏域ツナガルインターンシップ推進事業

(別添資料2)

3. 事業の背景・目的 (P8)

八代市は15歳前後の流入人口が全国と比して多い反面、18～20歳前後の転出が非常に多いという特徴がある。本事業は若者の流出を抑制することを目的として、学生に市内企業の魅力を知ってもらう機会を創出すること、また、その手法の一つとして、実践的なインターンシップの制度の構築に取り組むもの。また、移住・定住を促進するための側面支援も併せて実施する。

4. 事業の概要 (H28～R2年度) (P8)

- ① 企業と若者との交流拠点整備
- ② インターンシップの取組を通じて活性化する企業活動・若者の集積を産業振興や定住促進へ繋げるための側面支援事業

7. 本事業における重要業績評価指標 (P9)

指標名		開始	H28	H29	H30	R1	R2
圏域内企業への就職者数(人)	目標値	141	141	144	162	196	245
	実績値	141	140	143	158		
圏域への定着率(%)	目標値	91	91	91	92	93	94
	実績値	91	89	86	85		
インターンシップ参加学生数(人)	目標値	0	0	53	164	308	485
	実績値	0	0	43	205		

9. 事業の地方創生への効果 (P10)

- ② 地方創生に相当程度効果があった

10. 成果・課題 (P11)、16 今後の方針 (P13)

成果	課題	今後の方針
交流拠点整備関連（交流拠点整備、成長力強化支援）		
・インターンシップ参加学生数目標値達成 ・職種を絞った企業と学生の情報交換会の実施により、就職に結びついた事例があった ・未来チャレンジ企業創出支援コーディネーター（以下、コーディネーター）による支援の充実	・中～長期インターンシップを重点的に実施していく必要あり ・コーディネーターが1名であるため、物理的・時間的に限界あり ・コーディネーターの専門性を鑑みると安易に増員もできない	・課題解決型インターンシップ試行 ・有料サービスの構築 ・有料職業紹介事業の認可取得 ・コーディネーターによる支援の継続
側面支援事業（企業人材確保支援、広域連携事業）		
・学生が研究生の地元定着志向が強くなった ・移住・定住フェア参加者より1組6名の移住、2組4名の来訪あり	・学生が研究生の参加が少ない ・市内の移住者向け相談会廃止 ・移住・定住フェアは、継続的な取組及び圏域での連携が必要	・学生が企画内容のブラッシュアップ ・移住交流カフェ（民間団体）支援 ・熊本県移住相談会等への参加

5. 経費内容 (H30計画) (P9)	8. 事業実績 (H30) (P10)	16. 取組概要 (R1) (P13～14)
企業と若者の交流拠点整備		
22,023千円 ・事業活動エリア拡大（芦北町・氷川町） ・圏域企業、圏域学生の掘り起こし ・紹介冊子掲載企業及び配布エリア拡大 ・インターンシップ専用アプリ普及 ・実践型インターンシップ創設 ・UIターン者相談窓口の設置 ・業種別情報交換（企業、学生対象） ・インターンシップ導入にかかる各種セミナー拡大 ・学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート	22,023千円 ・短期及び中・長期インターンシップ205人・81社 ・企業説明会（8,10月）延34社、延130名 ・企業向けセミナー（5,6,3月）延76名 ・インターンシップ紹介冊子（Vol.1～3）各5,000部	17,515千円 ・企業PR策拡大（企業情報紹介冊子、専用アプリの活用） ・域外からの長期インターンシップ受入拡大 ・域内企業への各種セミナーの開催 ・UIターン者相談窓口によるマッチング支援 ・学生と企業による新技術・新製品開発等に対するコーディネート
企業の成長力強化支援		
3,245千円 ・今後成長が期待される「未来チャレンジ企業」を認定し、大学・高専等との連携を含む開発案件を支援 ・「未来チャレンジ企業」に対してアドバイザーによる連携強化、経営力強化支援	3,245千円 ・未来チャレンジ企業創出支援コーディネーター設置 技術的課題の抽出・解決支援 4社 新技術・新商品開発支援等 4社 国県等助成事業の活用支援 3社	3,677千円 ・今後成長が期待される「未来チャレンジ企業」を認定し、大学・高専等との連携を含む開発案件を支援 ・「未来チャレンジ企業」に対してアドバイザーによる連携強化、経営力強化支援
人口流出防止・人口流入増大に係る企業人材確保支援		
3,753千円 ・ライブランセミナーの開催	3,715千円 ・高校生による地域研究（学生が）研究会 全5回 研究生13名 ・成果発表会（シンポジウム）研究生10名 観覧者 208名 ・学生ラボ冊子「8 DAYS」作成・配布 6,000部	3,201千円 ・ライブランセミナーの開催
定住自立圏構想による広域連携事業		
422千円 ・移住・定住フェア（首都圏）	231千円 ・はじめてのやつしろ暮らし相談会：1回 ・移住交流カフェ（民間団体）への支援 ・移住定住フェア（首都圏） ・参加：6回 相談者：17人	369千円 ・移住・定住フェア（首都圏、大阪）
29,443千円	29,215千円	24,762千円

3. 事業の背景・目的 (P15)

広域交流センターさかもと館（道の駅坂本）は、地域の物産振興・交流の拠点となっている。また、ダム撤去に伴い、球磨川の再生による新たな観光資源が生まれつつあり、この機会を捉え、交流人口の拡大、コミュニティビジネスによる地域雇用の創出を目的として施設整備を実施するもの。

4. 事業の概要（H28～H29年度）（P15）

イベント交流施設の整備

7. 本事業における重要業績評価指標 (P16)

指標名		開始	H28	H29	H30	R1	R2
収入額 （千円）	目標値	0	470	19,745	29,260	30,074	30,476
	実績値	0	303	14,634	16,117		
来客者数 （人）	目標値	0	300	9,130	13,140	13,290	13,365
	実績値	0	99	7,386	7,497		
雇用創出数 （人）	目標値	0	0	5	8	10	11
	実績値	0	0	10	10		

9. 事業の地方創生への効果 (P16)

③ 地方創生に効果があった

10. 成果・課題 (P16)、16. 今後の方針 (P17)

成果	課題	今後の方針
・ イベント交流施設の整備により収入は増加した ・ 地元主体の雇用ができている	・ コミュニティビジネスのメインが「食処さかもと鮎やな」であり、実施期間が限定される	・ PR活動を行い、広範囲からの集客ができるように支援する。 ・ 年間を通して施設の稼働率を上げるため坂本住民自治協議会等への支援を行う。

イベント交流施設の整備

5. 経費内容（H29計画）（P15）	8. 事業実績（H29）（P16）
56,730千円 ・ 施設整備 イベント交流施設増築 厨房の整備 1,000千円 ・ 備品購入 厨房設備 テーブル・椅子等	56,011千円 ・ 施設整備 イベント室 114.80㎡ 厨房 43.20㎡ ピロティ 24.00㎡ 670千円 ・ 備品購入 冷凍冷蔵庫 製氷機
57,730千円	56,681千円

1. 一般社団法人さかもと「食処さかもと鮎やな」の収支内訳

(単位：千円)			
		H29年度	H30年度
収入	売上	14,191	15,318
	雑収入	5,000	379
	収入計	19,191	15,697
支出	投資的経費	7,009	1,320
	経常経費	14,123	14,944
	支出計	21,132	16,264
	収支	△ 1,941	△ 567

2. 成果

- ・ イベント交流施設を整備したことにより、H29年度からH30年度にかけて、来客数及び売上額も増加した。
- ・ 雇用の拡大につながった。
- ・ バスツアーにより来客数の増加につながった。（バスツアー H29年度：3回 H30年度：11回）

3. 今後の方針

- ・ 「食処さかもと鮎やな」を定着させるために、市内の企業、自治会、各種団体等へポスターの掲示、チラシの配布を依頼する。
- ・ 団体客誘致のために、県内外の旅行会社へ営業活動を行い、バスツアー客の拡大を図る。
- ・ 小人数の団体の利用を図るため、マイクロバスでの送迎を開始する。
- ・ 人員配置、材料費等を検討して経費の削減に努める。
- ・ 「食処さかもと鮎やな」の営業期間を延長して、売上額の増加を図る。

4. 「食処さかもと鮎やな」以外での活用について

- ・ 「食処さかもと鮎やな」の営業期間外に、山村活性化協議会の販売・流通部門での新商品開発や既存商品の改良の場として活用していく。
- ・ 毎年、坂本町で産まれた子供たちを地域全体でお祝いする「新生児お祝い会」を開催する。
- ・ 川遊びイベント等を開催する場合には、イベントと連携した会場として利用し、賑わいの創出の場とする。